Information-technology
Promotion
Agency, Japan

【第二回　国際トレーニングご案内資料】

2018年11月

独立行政法人情報処理推進機構
産業サイバーセキュリティセンター

2019/1/16：更新

サイバーセキュリティ国際トレーニング
概要

テーマ

制御システムを有する企業における戦略的サイバーセキュリティ対策

- サイバーセキュリティ対策の統括部門の責任者（部門長、CISO、CIO等)を対象とする本セミナーは、制御システム（OT：Operational Technology）を有する企業に軸を置き、企業を守るために必要なスキルとメソッドを紹介します。
- 高度なサイバー脅威が増加していること、制御システムを有する企業を守るベストな方法とは何か、そして自社組織に適用可能なサイバーセキュリティ投資の根拠となるリスク分析、インシデント管理の実行フレームワークについて理解することが出来ます。

本セミナーの目的及び内容

- CISO(もしくはCIO)と海外セキュリティ専門家間のコミュニティやリレーションの構築をします。
- 制御システムを有する企業を防御するためのコンティンジェンシー・プランニング、組織組成、手順に関するベストプラクティスをもとにした討議を実施します。
- 重要インフラ、制御システム、脅威を与える組織・人（ハッカー、犯罪組織、ハクティビスト等)に重点を置きながら、現在のサイバー脅威の全体像を理解します。
- サイバーセキュリティ対策への投資の根拠となるリスク分析を理解します。
- 自社組織に導入可能な、制御システム防御の実行可能なソリューションを参加者に提供します。
- 実際のインシデント発生前に、政府関係者や各機関とのやり取りを含む、インシデントレスポンスの演習を実施します。

サイバーセキュリティ国際トレーニング
本プログラム3つの特徴

本プログラムは米国アイアンネットサイバーセキュリティ社のナレッジ・ノウハウをベースに、産業サイバーセキュリティセンター提供プログラムとして、日本における社会インフラ、産業基盤をもつ企業向けに**オーダーメイド**で開発しております。

特徴①

「エネルギー部門などのサイバー・リスク対応を得意とするブレット・ウィリアム少将（元）による特別講演」

- ブレット・ウィリアム少将（元）は、全米取締役協会(NACD)の教員であり、取締役会に対してサイバー・リスクを教えています。
- グローバルな視点からエネルギー、製造、金融、ヘルスケア部門などのサイバーリスクに対する対応について学ぶことが出来ます。

特徴②

「ケース・スタディーを通じたOTサイバー攻撃の対応に関するベストプラクティスの紹介」

- 米国を中心として実際に過去に発生したOT（Operational Technology）に対するサイバー攻撃のケース・スタディーを実施します
- 各事例毎に、企業によって実際に行われたインシデント準備（Preparation）とインシデント対応（Response）について、長所・短所を振り返りながら、最新のベストプラクティスについて学ぶことが出来ます

特徴③

「2020年東京オリンピックを想定したOTサイバーインシデント対応の実戦演習」

- 2020年東京オリンピックを想定した、重要インフラのOTに対する疑似的なサイバー攻撃シナリオに基づき、インシデント発生時の不確実且つストレスの大きい状況下で、インシデント対応を実践形式で演習します
- 複数グループに分かれ、各参加者に特定の役割をアサインした上で、攻撃シナリオに基づいて講師から与えられる様々な情報をInputに、インシデント対応における意思決定・判断を演習します

【ご参考】
CISOの役割と知識・スキル

主要な役割	セキュリティプログラムに係るリーダーシップ	• CIOやその他Cレベルの経営層に対して、IT・OTセキュリティ、プライバシーに関するアドバイス提供、および組織大でのセキュリティガバナンスの実行
	ポリシー・コンプライアンス・監査対応	• IT・OTセキュリティ、プライバシーに関する効果的かつ合理的なポリシー、プロセスの開発・実装の指揮、および監査に関するガイダンスの提供
	リスク管理とインシデント対応	• セキュリティリスク管理、コンプライアンス対応、技術的セキュリティ基準の開発・実装・管理、新しい技術のセキュリティへの適用に関するリーダーシップの発揮
主要な知識・スキル	セキュリティ機能に関する深い知識	• 企業・組織が保有する重要・資産データの保護における全ての側面に関連するIT・OTセキュリティ機能に関する知識
	セキュリティ・プライバシー関連の法律・基準に関する深い知識	• IT・OTセキュリティ、プライバシーに関する法律（連邦法および州法）、業界標準・基準、ポリシーフレームワークに関する知識
	セキュリティ関連の意思決定における高いマネジメント能力	• 組織における部門・個人がIT・OTセキュリティおよびプライバシーに対するリスク管理責務を全うする上で必要となる意思決定とガイダンス
	ID・アクセス管理に関する深い理解	• ID・アクセス管理、および関連する技術やソリューションに関する知識
	企業戦略とセキュリティ要求のバランスを見極め・維持する力	• 企業における戦略、計画、価値等とセキュリティ要求のバランスを図り、効果的なセキュリティ対応策・解決策を策定する能力
	卓越した対内外コミュニケーション能力	• 技術的・非技術的な要員を含む、セキュリティに係る全てのステークホルダー、経営層、外部組織と円滑かつ正しくコミュニケーションする能力
	ハイレベルな対人スキル	• セキュリティに関するあらゆるレベルにおいて、技術的・非技術的な要員と円滑に協業するために必要となる対人能力

サイバーセキュリティ国際トレーニング
トレーニング受講者の感想

- OTとITの関わりが判りやすく整理されていた点及び基本的な理解へのアプローチの仕方が有益でした。
- インシデントのフレームワークの考え方は実戦的で大変参考になった。BCPと類似しており理解しやすかった。
- 異業種他社の方々と共通のテーマで議論する事で参考となる情報や取組みを共有することが出来た。
- 私は会社のIT領域の統括責任者であり、先日のWannaCry後に製造、サプライチェーン部門とのOT領域のサイバーセキュリティ対策について話し始めたところだった。今後ディスカッションを進める中でポイントを体系立てて話すことができそう。
- ２日目の演習が有益であった。組織の中で役割を決め、そのRoleの中で進めていくプロセスを体験でき、いくつか気付きがあった。特にCybersecurityのリスクは企業のリスクマネジメントの一部であると実感した。
- テロ組織、国家のようなスキルとリソースを十分に持つ組織に狙われた時にどれくらい大きな被害を想定すべきかを再確認した。また、自社が最終ターゲットでなくても攻撃全体のストーリーの中に使われることがあることは今まであまり想定していなかったので勉強になった。

サイバーセキュリティ国際トレーニング
プログラム全体像（予定）

本プログラムはアイアンネット社の知見・ノウハウをベースに、産業サイバーセキュリティセンター提供プログラムとして、日本における社会インフラ、産業基盤をもつ企業向けにオーダーメイドでプログラム開発をしております。

1日目　10:00～19:00 (※19:00-21:00懇親会)
CIO/CISO向けトレーニング・セッション
（重要インフラ企業における戦略的セキュリティ）

特別講演：
ブレット・ウィリアム少将（元）

IPA産業サイバーセキュリティセンタ関係者　スピーチ

トレーニング・セッション

- CIOの役割と責任
- 企業のリスク管理・OTとサイバースペースの脅威
- サイバーセキュリティとOTに関する企業の防御可能性
- サイバーセキュリティインシデントに対する計画と準備・OT企業のインシデント対応プロセス・ケーススタディ
- まとめと２日目演習への準備

ネットワーキング懇親会（特別講演の講師他も参加）

2日目　10:00～18:00
CIO/CISO向けウォーゲーム ・セッション
（シナリオに基づいた実践的演習セッション）

ウォーゲーム・セッション

- オリエンテーション
- ウォーゲームセッション（企業レベル）
- ウォーゲームセッション（危機対応）
- 振り返りとまとめ

クロージングスピーチ
登壇者：IPA

- 1日目のセッションの順番については、スピーカーの都合により、前後する可能性があります。
- 両日共に以下の日本語サポートを予定しております。
  1日目（講義）：講義資料の日本語版の配布と日本語サポート要員の配置
  2日目（演習）：日本語サポート要員の配置（ご発言の逐次英訳も対応いたします）
- ネットワーキング懇親会には、サイバーセキュリティ有識者を始め、IPA産業サイバーセキュリティ―センター関係者も参加予定。

サイバーセキュリティ国際トレーニング

講演者プロフィール（特別講演）

全米取締役協会 NACD NATIONAL ASSOCIATION OF CORPORATE DIRECTORS

ブレット・ウィリアム少将（元）

Major General (Ret) Brett Williams

講演テーマ

サイバーセキュリティ幹部に必要な戦略とは

プロフィール

ブレット・ウィリアム少将（元）は、全米取締役協会(NACD)の教員であり、取締役会のメンバーに対してサイバーリスクに関する講義を実施しています。また、エネルギー、製造、金融、ヘルスケア部門の取締役も務めています。

経歴：

デューク大学でコンピュータサイエンスの学士号を取得。また、国家安全保障などの研究テーマで3つの大学院にて学位を取得。

空軍少将時代、米国サイバー司令部の運営ディレクターとして、DoD（米国国防総省）ネットワークの運用と防衛を担当する400人のチームを率い、攻撃オペレーションの計画や実行を指揮。

専門分野：

エネルギー、製造、金融、ヘルスケア部門のサイバーリスク対応

※同氏は1日目のネットワーキング懇親会に参加の予定

サイバーセキュリティ国際トレーニング
プログラム詳細案（1日目トレーニングセッション）

概要		• セキュリティインシデントを特定、管理、解決する上で必須の検討事項について、特にOTセキュリティに焦点をあてて取り上げ、参加者間での経験の共有を通じて、企業・業界・国レベルでのインシデント管理の在り方や改善方法について学びます。
研修目的		• 自社で適用可能なインシデント管理フレームワークの学習および自社組織における実践能力の獲得 • 過去の主要インシデント（良い事例と悪い事例双方）の理解 • セキュリティインシデントの各機関への報告タイミングや手法、また組織内の誰が関与すべきなのかの理解 • 通信が利用できない場合や不正アクセスされている場合等の、コミュニケーション方法の学習 • インシデント発生後に組織内で対応を管理改善する手法を取得
取り上げるトピック	予防	• インシデントの発生前に必要となる、組織、ポリシー、プロセスを確立する方法を学ぶ
	検知・インシデント報告	• インシデントマネジメントのための、OT/ITモニター技術、脅威インテリジェンス、報告プロセス、アクティブ脅威ハンティングの応用を学ぶ。「いつ」「誰が」「どのように」インシデント発生を宣言し、対応プロセスの開始を判断するかについて学ぶ。
	インシデント対応原則	• 脅威を把握し、排除し、回復することにおける意思決定戦略とそれに基づいた施策を学ぶ。インシデントマネジメントにおいて、関係者間で共通の状況認識を形成し、法的・倫理的要件を満たすためのコミュニケーション・情報管理の手法を学ぶ。
	インシデント発生後対応	• 最善の対策を打っていたとしても、インシデントは必ず発生する。インシデントのエビデンス情報の収集とその分析方法など、インシデントからの学び、プロセスを改善する方法を学ぶ。

サイバーセキュリティ国際トレーニング
プログラム詳細案（2日目：ウォーゲームセッション）

概要

- 2日目は、インシデント対応方法について、疑似的なサイバー攻撃のシナリオと、それに基づいて発生しうる想定イベントに沿って、グループ演習を実施します。

【進め方のイメージ（想定）】

✓ 5～7名程度/1グループの複数グループに分かれて演習を実施

✓ 各グループを疑似的な重要インフラ事業者として見立て、各参加者にサイバーセキュリティ・インシデント対応におけるステークホルダーの役割を割当て（CISO、リスクマネジメント室長など）

✓ シナリオ・イベントに沿って講師から与えられる様々な課題に対して、グループ内で討議の上、インシデント対応を実践する

※セッションイメージ

研修目的

- 1日目で学んだインシデント管理フレームワークを活用し、インシデント発生時の、不確実且つストレスの大きい状況下で、対内外コミュニケーション・連携を通じて、いかに効率的、効果的にインシデント対応・管理をすべきかを実践的に学ぶ

想定シナリオイベント

疑似的な背景・ストーリー（例）

日本政府を敵視しているある組織の工作員たちが、2020年の東京オリンピックの開会式を、自組織の能力を世界に誇示するまたとないチャンスであると捉え、ハクティビスト団体等と協力をして一連のサイバー攻撃を計画・実行

シナリオ①：企業に大きな影響を与えうるインシデント（例）

- 各業界別のスピアフィッシングキャンペーンを展開
- 電力会社経営者への高度なスピアフィッシング攻撃
- 小規模のOTシステム障害（続き・・・）

シナリオ②：2020年東京オリンピックに関する国際的な危機（例）

- 複数の変電所のPLC内のマルウェアによって停電発生
- オリンピック開催場所近くで爆発が発生、しかし街灯や信号が機能せず人々の避難が困難な状態に（続き・・・）

サイバーセキュリティ国際トレーニング
講師陣紹介

スティーブ・ザルースキー氏 (Steve Zalewski)

Levi Strauss & Co社における、サイバーセキュリティインテリジェンスおよびインシデント対応担当チーフセキュリティアーキテクト兼ディレクター。グローバルサイバーセキュリティ戦略とサイバーセキュリティインシデント対応組織の管理を担当。それ以外にも、Pacific Gas & Electric Company社のエンタープライズセキュリティアーキテクトなどの役職を経験。

デビッド・ローズ氏(David Rose)

8年以上の経験を持つ技術プロジェクトマネージャーであり、製品やサービスの契約を成功裏に完了するための取り組みを推進している。IronNet入社前は、ブーズ・アレン・ハミルトン（Booz Allen Hamilton）で働きつつ、国家安全保障省（Department of Homeland Security）サイバーセキュリティ担当副次官補（DU / S）を特別補佐として支援。

フェルナンド・マイミ氏 (Fernando Maymí, Ph.D.)

革新的ソリューションの調査・開発・普及に長年従事し、Army Cyber Instituteの元課長補佐として、重要な官民提携活動に従事。現在はSoar Technology社のサイバー関連製品の研究と製品化をリード。政治家、経営者等に対するサイバー関連アドバイザーとして豊富な経験を有する。

ジョージ・ラモント氏 (George Lamont)

IronNet社の最高情報セキュリティ責任者。サイバーフォース準備の第一人者。IronNet社のエンドツーエンドサイバーセキュリティソリューションを支援。27年に渡るサイバー運用とあらゆる通信における功績。脅威情報共有フレームワークの一部として、スキルの高いチームの構築。米輸送軍の準備および作戦部門補佐官の軍歴を通して、通信ネットワークの構築に従事。

サイバーセキュリティ国際トレーニング
概要

対象者

- 制御システムを有する企業・団体のサイバーセキュリティ対策を統括されている責任者を想定しております。（部門長、CISO、CIO）

日程/開催場所

- 日程：2019年2月1日（金）～2月2日（土）
- 場所：独立行政法人　情報処理推進機構

  東京都文京区本駒込二丁目28番8号
  文京グリーンコートセンターオフィス

定員

- 30名程度

受講料

- 受講料に含まれるもの：事前資料、テキスト代

※1日目終了後の懇親会、宿泊費・交通費は含まれておりません。

- 受講料　2日間30万円（税込）

サイバーセキュリティ国際トレーニング
お申し込み先・お問合せ先

募集期間

第二回（2019年2月1日～2日開催）の募集期間は、2019年1月11日までと致します。(募集定員に到達し次第、募集を締め切りとさせて頂きますので、お早めにお申し込みください。)

お申込み方法

【 E-mail : coe-hrd-info@ipa.go.jp 】へお申し込みください。

※受講プログラム名と受講予定人数をお知らせください。担当者よりご返信差し上げます。

独立行政法人情報処理推進機構
産業サイバーセキュリティセンター　国際トレーニング担当　　中山

TEL：　　03-5978-7554（直通）（受付時間）平日9:30-18:00

住所：　　〒113-6591　東京都文京区本駒込2-28-8
文京グリーンコートセンターオフィス17階

URL：https://www.ipa.go.jp/icscoe/program/short/all_industries/index.html

【個人情報の取り扱いについて】
弊機構は、本プログラムの申込のためにご提出頂いた個人情報の適切な管理に努めております。ご提供頂いた個人情報は、本プログラムを提供するために必要な範囲（事務処理および講師への当日受講者リストの配布等）で利用させて頂きます。個人情報保護についての詳細は下記のページをご参照ください。
http://www.ipa.go.jp/about/privacypolicy/index.html